

名 称	概 要
限界値分析	有効値と無効値の境界となる値をテストデータとする
同値分割	有効値と無効値のグループに分け、それぞれのグループの代表的な値をテストデータとする

例えば、入力項目“年齢”(整数値)の正常データ範囲が $15 \leq \text{年齢} \leq 60$ である場合を考えてみましょう。

(無効同値クラス)	(有効同値クラス)	(無効同値クラス)
... 14	15 ... 60	61 ...

限界値分析では、有効同値クラスの最小値と最大値、及びそれらを一つ超えた値をテストデータとします。この例では、14, 15, 60, 61となります。

同値分割では、有効同値クラスと無効同値クラスから、それぞれ代表的な値をテストデータとします。この例では、10, 30, 70などの値となります。

“くれば”で覚える

限界値分析	とくれば	有効値クラスと無効値クラスの境界値
同値分割	とくれば	有効値クラスと無効値クラスの代表値

■ ソフトウェア結合テスト

ソフトウェア結合テストは、ソフトウェアユニットテスト済みのモジュール同士を結合して行うテストです。結合テストとも呼ばれます。ソフトウェア方式設計で定義したテスト仕様に従って行い、モジュール間のインタフェースを確認します。代表的な手法に、トップダウンテストとボトムアップテストがあります。

“くれば”で覚える

ソフトウェア結合テスト	とくれば	モジュール間のインタフェースを検証する
-------------	------	---------------------

● トップダウンテスト

トップダウンテストは、上位のモジュールから下位のモジュールへと順次結合して検証します。下位モジュールが完成していない場合、テスト対象のモジュールからの呼出し命令の条件に合わせて値を返すダミーモジュールの**スタブ**が必要です。

